

November 9, 2017

農村地域活性化 日米の課題提起 NYで上越の関原さんら講演

米ニューヨーク(NY)の民間非営利団体(NPO)ジャパン・ソサエティ本部で10月末、農村地域の活性化をテーマにした公開シンポジウムが開かれた。上越市のNPO法人「かみえちご山里ファン倶楽部(くらぶ)」を設立した関原剛さん(56)らが、日本各地の農村における実践例について講演した。

日米交流の促進を目指すジャパン・ソサエティが主催。シンポに先立ち、関原さんら日本から訪れた5人はネブラスカ州などの農村部を10日間にわたり訪問・視察した。

シンポで関原さんは20年近く運営に携わってきた「かみえちごー」の活動を紹介した。大雪の際の高齢者への食料配達や、地域に残る民俗文化保全などの例を挙げ、農村部を総合的に支える組織の役割を強調した。

その上で「人口が少なすぎる地方も、多すぎる都市も問題を抱えている。その中間となる適切な規模の新しいコミュニティをつくることで、田舎と都市の住民を両方救うことができる」と指摘。日米両国に共通する課題を提起した。

講演後、関原さんは「米国の大学が研究と地域貢献を常にセットで考えていることが印象に残った。視察先の大学から一緒に活動しようという誘いもあった」と収穫を語った。

(本社国際交流拠点NY事務所・山田啓介)



農村地域の活性化をテーマにしたシンポジウムで話す関原剛さん(中央) = 米ニューヨーク



【社会】 2017/11/09 14:19